カプリコン 2

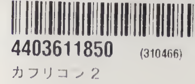
真鍋譲治



カプリコン②

真鍋譲治

新書館





新書館　定価490円(本体476円)
ISBN4-403-61185-0 C0079 P490E

WINGS◎COMICS
SHINSHOKAN

■真鍋譲治のコミックス

カプリコン〈全5巻〉
ドーラ
怒濤！ ジャムカの大冒険①〜③

定価各490円（税込）

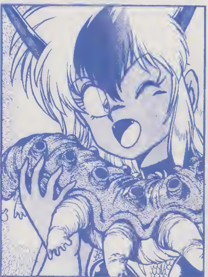
カプリコン②

1989年 3 月10日＊初版発行©
1991年 4 月10日＊第 9 刷

著　者＊真鍋譲治
発行所＊株式会社新書館
〒112 東京都文京区千石1-21-7
☎(03)3946-5331　振替・東京4-53723
（営業）〒174 東京都板橋区坂下1-22-14
☎(03)5970-3840　FAX(03)5970-3847
印　刷＊図書印刷

ISBN4-403-61185-0　定価490円（本体476円）
Printed in Japan

〝カプリコン〟征服の陰謀が、ひそかに進行する——!!　惑星スラフレーゼの実権をにぎる国防大臣ゾルバの野望の前に、人々はなすすべもないのか……!?
ヤッピ族としての使命にめざめるモーナ、地球からやってきたタク、タマキの活躍を中心に、「カプリコン」は、さらにパワーアップ！　とびっきりの異世界ＳＦアクションを、迫力満点に展開する、待望の第二巻!!







カプリコン②

真鍋譲治

新書館



CAPRICORN

by JOHJI MANABE



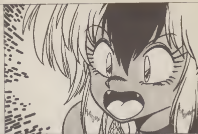
カプリコン②

真鍋譲治

■おもな登場人物■



タク
地球から、ある日突然やってきた中学二年生の少年。わりとまじめな性格。



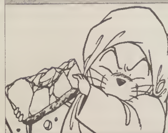
モーナ
ヤッピ族の数少ない生き残り。ガレッティ博士の家にやっかいになっている。



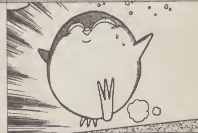
ソルバ
スラフレーゼの実権を握っている国防大臣。カプリコン征服を狙っている。



タマキ
タクの姉で、高校1年生。プロレス同好会に所属するパワフルねーちゃんだ。



ジル
ガレッティ博士の孫で、モーナとはよい遊び友だちだ。なぜか関西弁を話す！



モゲゲ
ガレッティ家の家族なのかペットなのか、存在自体が謎の鳥。ちょっと太め。

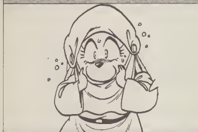
■おもな登場人物■





スラフレーゼ国王陛下
貪欲で、利己的で、かつ臆病な性格。スラフレーゼの国政には全く関心がない。

ヨットル博士
酒で身をもちくずした科学者。ガレッティ博士の親友で、その遺志を継ぐ。





ノン
気立てのやさしい、ジルの姉。やんちゃなモーナたちの世話でいそがしい……。

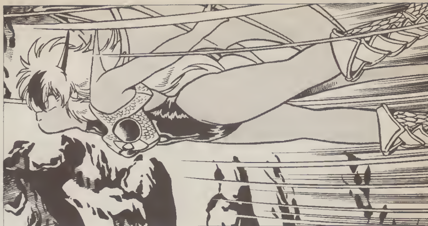
バーラム
隻眼の女盗賊。モーナがヤッピ族と闘いて、その目を輝かせるが……。





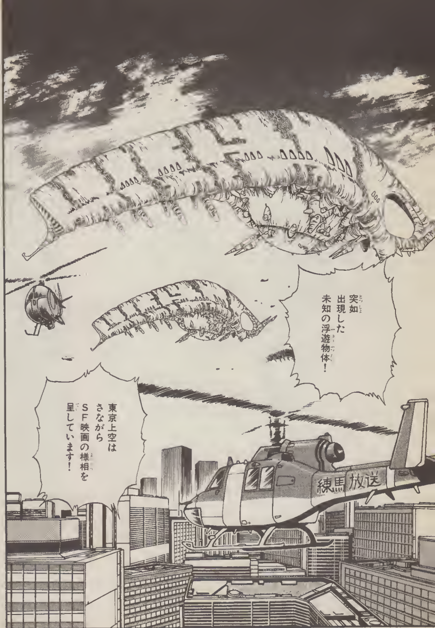
ポポ＆ドッペ
バーラム一家の子分。バーラムの手足となって働くが……ちょっとドジな二人組。

大佐
謎の私設軍Ｓ・Ｍ・Ｓに所属。スラフレーゼの存在に危機感を抱いている……。



ACT6
ジェノサイド・シップ




突如出現した未知の浮遊物体！
東京上空はさながらSF映画の様相を呈しています！
練馬放送

しかしこれは映画ではなく現実に目の前に起こっていることです!
物体はゆっくりとした速度で北に進んで行きます!
この未知なる物体ははたして何なのか!?
上空に浮かぶ正体不明の星と何か関係があるのでしょうか?

ゴゴゴゴ

ただ今
入った報告によると
自衛隊の出動は
中止されました

ゴゴゴ

物体の正体を
確認できない限り
出動はないと
いうことです―

くりかえします
自衛隊の出動は
中止されました!!

気温・気圧・重力場ともに本艦の航行に支障なし！

都市上空にはあらゆる電波が発生していますが問題ありません

センサー探索を開始します

左舷に反応あり！

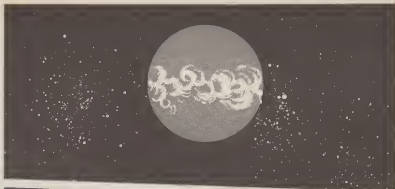
強力です！

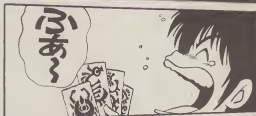
針路左60！

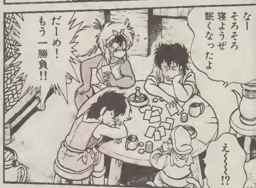
速度を落とせ！

あっ物体の針路が変わりました！

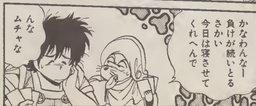
ゆっくり左に回っています!!



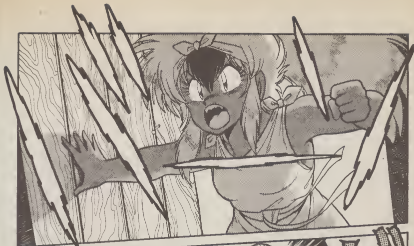
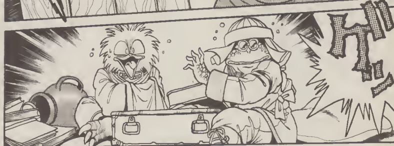
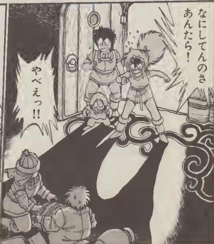

ふあ～


なー
そろそろ
寝ようぜ
眠くなったよ
だーめ！
もう一勝負!!
え～～～!?

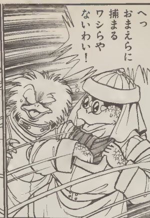



かなわんなー
負けが続いとる
さかい
今日は寝させて
くれへんで
んな
ムチャな

グタグタ言ってないでタクの番よ
へいへい
あの子たちすっかりモゲゲのこと忘れてるわね
ゴト
ん?
上で何か音がしたんじゃない?
やだあたいの部屋からじゃん
だれかおるみたいやで
ゴンゴン
まさかどろ…
しーっ!!
………
ゴクッ




なにしてんのさ
あんたら！
やべえっ!!

やっちゃえ〜っ!!
お…おう!!


へっ
おまえらに
捕まる
ワシらや
ないわい！

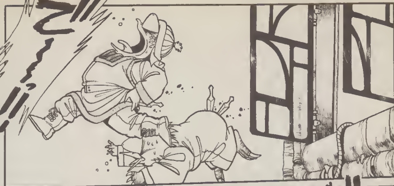

ほれっ!!
ボン
わっ!!


ゴホ
ゴホ
なんだ
こりゃ!!
ちくしょう
逃がすか！


そっちの
ドア閉めて!!
いてて!!
モーナ
俺だよ!!
………


あーっ
おったでーっ
窓や!!
ちっ

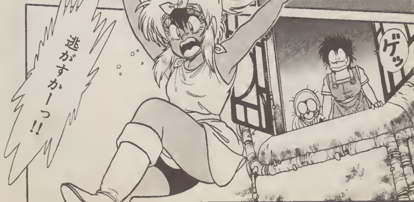

このおっ!!
ビッ



ど〜〜〜っ!!



ボテッ
ぐえっ
あーっ まだ 生きてる!!
ずりずり…
いたいだろーな



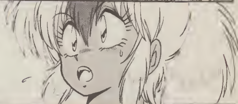
ゲッ
逃がすかーっ!!


モーナ!!
いっ…!!
たかい

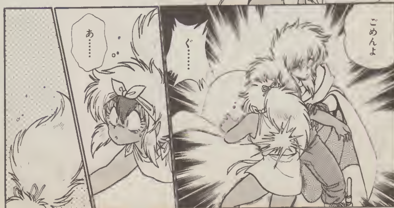

くそーっ!!
どたどた


ちくしょう
どこいったのさ
あいつら!
はぁ
はぁ

わっ!!
ザッ
よお!



あ…あれ
あんた
この間の……




よーし
運べ
つ〜〜〜っ！
アネキ〜〜
し…しりが
痛いんですけど
〜〜
そんなもん
つばつけときゃ
なおるって


せやけど
こんな小娘
捕まえるために
ケツは刺されるわ
二階から落ちるわ
ほんま
かなわんで〜
文句を
いうな


この娘が
握っている
宝のありかさえ
わかりゃ
おまえのケツの
一つや二つ
宝 宝って
どんな宝
なんでっか
ほんま
それを
聞き出すのは
俺の仕事だ



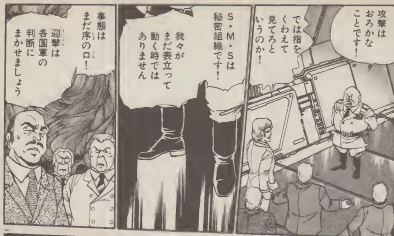

どーする気かね
大佐!!
どかどかどかどか

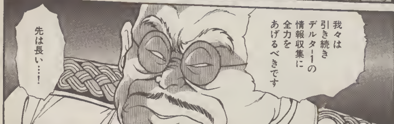

今は議論してる
場合では
ないぞ
行動
すべきだ!!


そうだ!
スペシャル・ミリタリー・サービス
(S・M・S)は
こーいう時のために
存在しているのだぞ
S・M・Sが
我々企業連合の
指揮下に
入ってることを
忘れるな!


S・M・Sは
国家権力の
およばない
私設軍だ
国家より
我々の利益を
守るための
組織だろうが


まあ
落ちついて
ください
あなたがたは
どうなさり
たいんですか
攻撃だ!
やつらを
追い帰せ!!

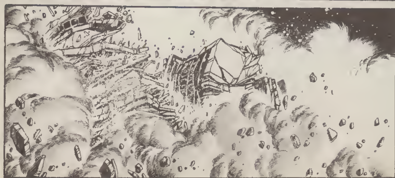

攻撃はおろかなことです!
では指をくわえて見てろというのか!
S・M・Sは秘密組織です!
我々がまだ表立って動く時ではありません
事態はまだ序の口!
迎撃は各国軍の判断にまかせましょう

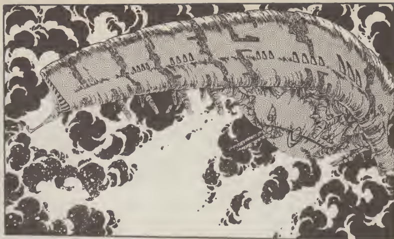

我々は引き続きデルタ-1の情報収集に全力をあげるべきです
先は長い…!

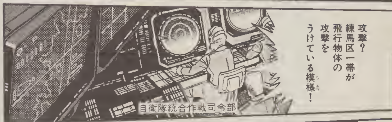

謎の飛行物体はまるで何かを探すように高度を下げゆっくりと進んでいます!
バラ
バラ
はたしてこの飛行物体の目的はなんでしょうか!!

クルーゲ将軍 ソナーに 強力な反応が でています
本艦の 真下です
たしかか!?
かなり 地下深くに あります
推定 三七〇〇ガル
それくらいなら 問題はない
よーし! 地表の邪魔な 建物を 消せ! めざわりだ!!
はっ

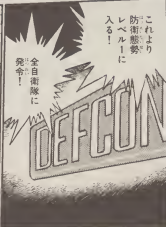




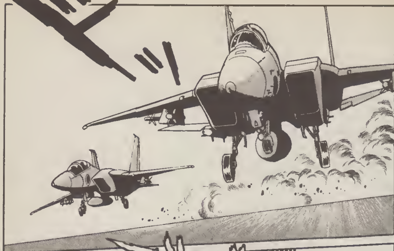


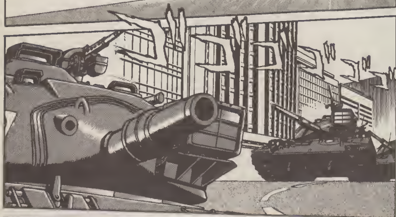

攻撃？
練馬区一帯が
飛行物体の
攻撃を
うけている模様！
自衛隊統合作戦司令部

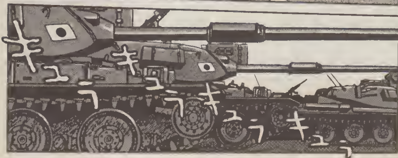

侵略だ！
これは
何者かの
侵略と
認定する!!

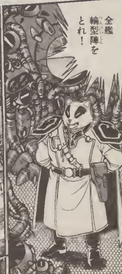

これより
防衛態勢
レベル1に
入る！
全自衛隊に
発令！
DEFCON


侵略者
を
撃退
せよ!!




ガガガガガ

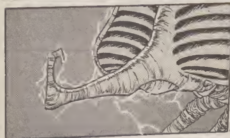

キュラ
キュラ
キュラ
キュラ

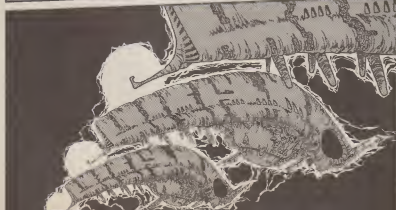

全艦輪型陣をとれ！


ゴオオオ




全艦
エネルギー放射！
レベル80！



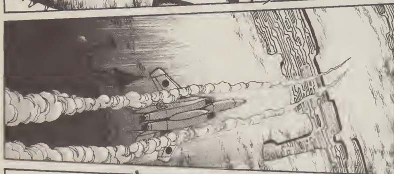


妙なことを始めたぞ!!

先手をうつ!

全機攻撃開始!!


ズッ
ズッ
ズッ



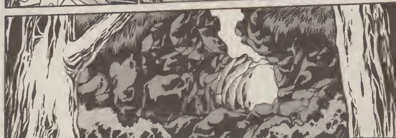

ボッ
ボッ

モーナ!!

こらーっ返事しろーっ!!

どこ行っちまったんだよ

あっち見てみようで



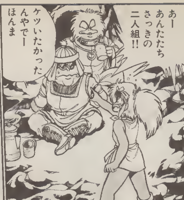
わっ!!

ガバッ

気がついたようだな

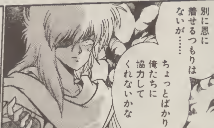
手荒にあつかってすまなかったな

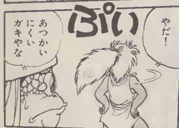
あんた……一体……


あー
あんたたち
さっきの
二人組!!
ケツいたかった
んやでー
ほんま

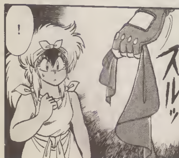

なにいってん
のさ！ こそ泥
のくせに！
まあ
まあ
こいつらは
俺の命令で
やっただけだ


じゃあ
あんたが
こいつらの
親玉――!!
どーいう
つもりさ!!
この間
兵隊から
あんたたちを
守ってやったろ


別に恩に
着せるつもりは
ないが……
ちょっとばかり
俺たちに
協力して
くれないかな


やだ！
ぷい
あつかい
にくい
ガキやな


二・三の
質問に
答えてくれれば
いいんだよ

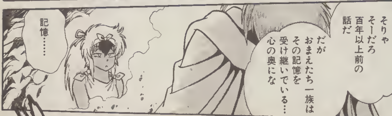

スルッ
！

俺の目をよくみろ
あ……
気を静めて俺の話をよく聞け
俺の声が聞こえるか？
うん…
おまえの名前は？
モーナ…
ヤッピ族……
俺たちの知りたいのはヤッピ族の宝のことだ
パチ
パチ


ヤッピ族の……宝？


そうおまえたちヤッピ一族はそれを守って戦った！
当時の政府とな！


あたい知らないよ…
戦争なんか


そりゃそーだろ百年以上前の話だ
だがおまえたち一族はその記憶を受け継いでいる…心の奥にな
記憶……

記憶……

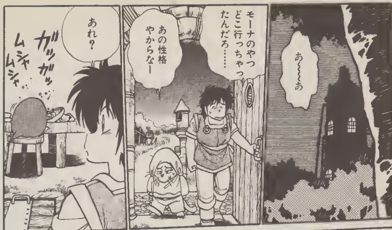




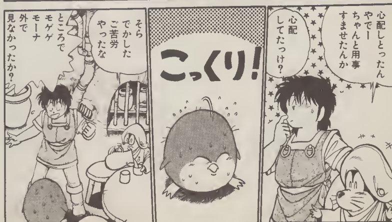

泣いてまっせ…
あたりまえだ
一族が全滅した
記憶を
引き継いでるんだ

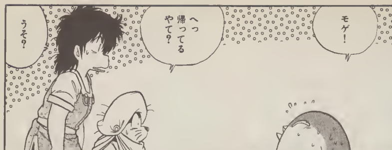

ぐす……
思い出した
ようだな……
そう
あの時の
戦いだ

どこにある
オルフの谷の北のほう……大きな穴があって……
えーと……オルフの谷ははー洞窟がぎょーさんありまっせ
宝ってのはなんだ?
知らない……! わからない……!
けど みんな必死に戦った……
戦ったんだ!!
アネキ……
これ以上無理かもな……
まあ場所さえわかればなんとかなる
パチン☆
つらいことを思い出させて悪かったな
もうおまえはすべてを忘れればいい……


あ〜〜〜あ
モーナのやつ どこ行っちゃったんだろ……
あの性格 やからなー
あれ？
ガツガツ
ムシャムシャ

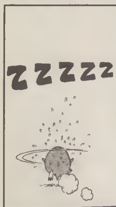

モゲゲ じゃないか
なんや 帰って きとったん かいな

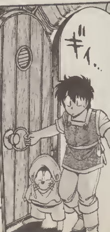

心配しとったん やでー ちゃんと用事 すませたんか
心配 してたっけ？
こっくり！
そら でかした ご苦労 やったな
ところで モゲゲ モーナ 外で 見なかったか？


モゲ！
へっ
帰ってる
やて？
うそ？


んな
バカな！
……
ドカドカ


ど──っ!!

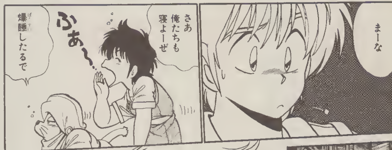

ZZZZZZ


ギィ…

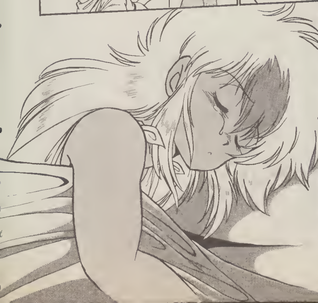

モーナ…

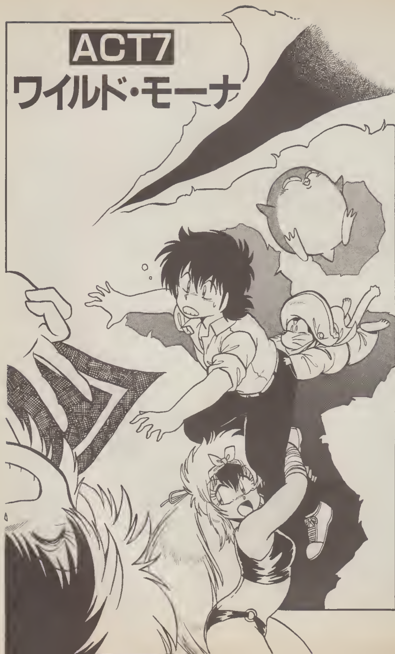



わなわな
あ〜〜っ気持ちよく寝ちゃって〜〜〜
こっちは足を棒にして探してたのに〜〜〜!!
まあえーやんけ何事もなかったんやから
す〜

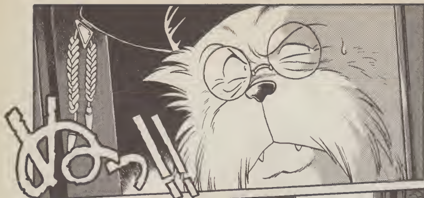

ま—な
さあ俺たちも寝よーぜ
ふあ〜
爆睡したるで

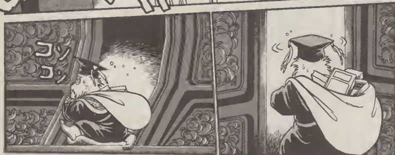




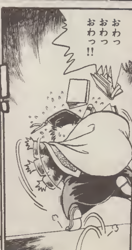

ACT7
ワイルド・モーナ

ファ〜〜


ぬっ!!


コソコソ


止まれ!!
ぎくぅ!!


おわっ
おわっ
おわっ!!


ずでで!!

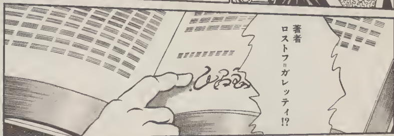
おやおや また あなたですか ヨットル博士
た たのむ 見逃してくれ!!
また こんなに本を 持ち出して〜〜〜
これ王立図書館の 本でしょう
いや…… 今日もちょっと 金繰りが… やばくてな……
こう たびたびだと 困りますな!
これは 元にもどし ときます!
そんな…
今まで 見逃して くれたではないか
礼は倍に するから
だめです 王立 図書館の本が 市内の古本屋に 出回ってるって うわさに なってるんですよ!
バカ者! 声が でかいわ 声が!!
第一 金繰りと いっても 酒代でしょう!!
ペチン
酒が無いと 研究心が わかんのじゃ
通してくれんと おまえたちが ワシに 手を貸した ことを しゃべっちまうぞ

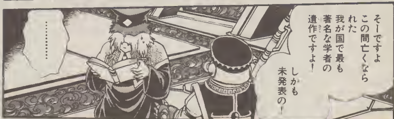

ひでえっ!!
開き直ったな!
かっかっかっ
贈収賄は
どっちも
罪は重いぞ!!

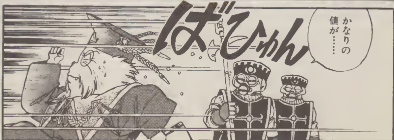

今は就職難じゃぞ!
わしは学があるが
おまえさんらは困るじゃろな!
ぬぬぬ
人の足元を
見おって〜〜っ!!
どうする……
博士のいう通りだぞ
おっ
そうだ


博士
なーんじゃ
なら
かわりに
この本を
さし上げます
なんじゃ
この本は……
タイトルもないぞ
変な鳥が
持ってたんですけどね
それなら
売ってしまっても
かまいません!


バカ者！こんなわけのわからん本に値がつくか!!
著者名を見てくださいよ我々も驚きましたから
なんじゃ国王陛下の日記とでもいうのか…
うーむ……カプリコン総論
著者ロストフ=ガレッティ


著者ロストフ=ガレッティ!?


そーですよこの間亡くなられた我が国で最も著名な学者の遺作ですよ！
しかも未発表の！
……………


かなりの値が……
ばびゅん

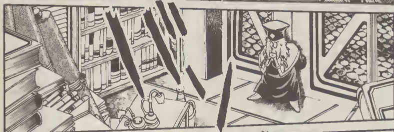
ちょっと博士！門はこっちですよ!!

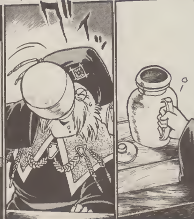
ヨットル博士!!

なんだありゃ？

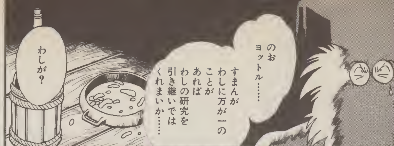
まぁいいじゃねーの 例の本も始末できたしよ

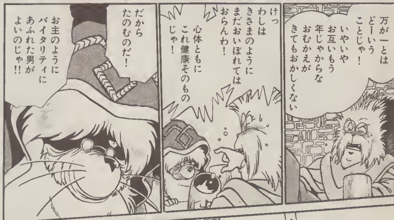
酔っぱらいのやることはよくわかんねーよ



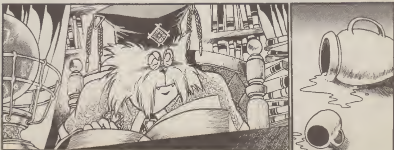


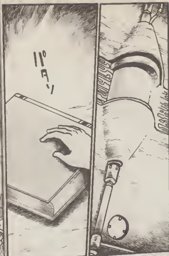



のお
ヨットル……
すまんが
わしに万が一の
ことが
あれば
わしの研究を
引き継いでは
くれまいか……
わしが？


万が一とは
どーいう
ことじゃ！
いやいや
お互いもう
年じゃからな
おむかえが
きてもおかしくない
けっ
わしは
きさまのように
まだおいぼれては
おらんわ！
心体ともに
これ健康そのもの
じゃ！
だから
たのむのだ！
お主のように
バイタリティに
あふれた男が
よいのじゃ!!


まあ
そういわんと
長生き
しようぜ！
わしも
酒飲み友達が
おらんと
さびしくなるわ
かっかっ
かっかっ!!



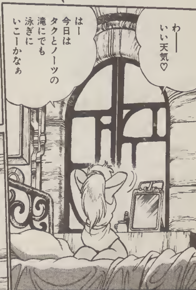




奴がカプリコンを
手に入れた時……

我がスラフレーゼは
滅びてしまう…!!


ん!!

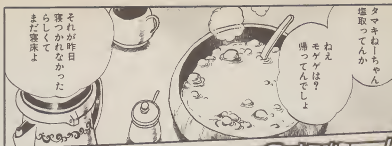

わーー
いい天気♡
はー
今日は
タクとノーツの
滝にでも
泳ぎに
いこーかなぁ


トッ
トッ
はーい!
いいよー

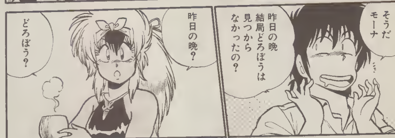

おはよー
モーナ
朝ごはんの
用意が……

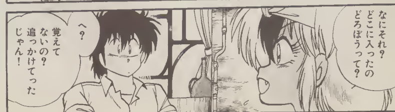
きゃほぉっ

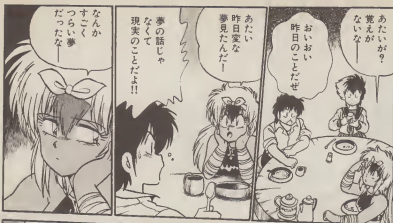



タマキねーちゃん
塩取ってんか
ねえ
モゲゲは？
帰ってんでしょ
それが昨日
寝つかれなかった
らしくて
まだ寝床よ

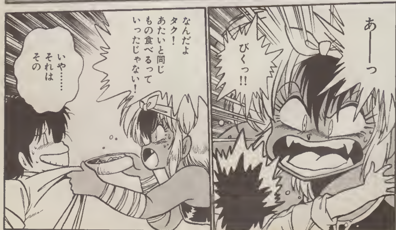

のほほ〜ん♥
なによ
タク！
朝っぱらから
気持ち
悪いわねー
ポッ
ポッ
つん！
？


そうだ
モーナ
昨日の晩
結局どろぼうは
見つから
なかったの？
昨日の晩？
どろぼう？


なにそれ？
どこに入ったの
どろぼうって？
へ？
覚えて
ないの？
追っかけてった
じゃん！


あたいが？
覚えが
ないな――
おいおい
昨日のことだぜ
あたい
昨日変な
夢見たんだー
夢の話じゃ
なくて
現実のことだよ!!
なんか
すごく
つらい夢
だったな――


あたいの
家族も友達も
みんな
いなくなっちゃう
夢でさ――
とんどん
悲しくなって
それでもって
腹が立ってきて……


あ――っ
びくっ!!
なんだよ
タク！
あたいと同じ
もの食べるって
いったじゃない！
いや……
それは
その

外国の料理になじむには時間がいるんだよ〜〜〜

今度から食べるっていったじゃん!!

うそつき…!!

まあまあ モーナ あんまり無理いっちゃだめよ

ゴ…ゴメン…

ピクッ

ん?

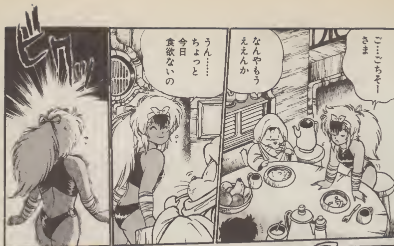
ビクッ

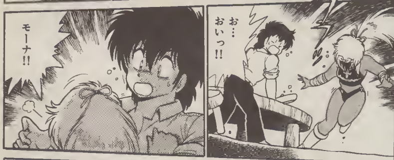
なんだよ これ……

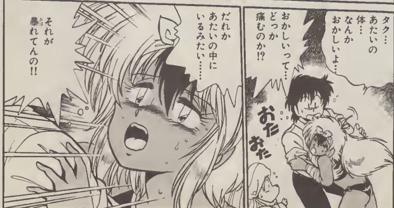
どーかしたの モーナ

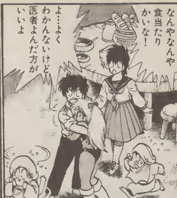
ううん なんでも



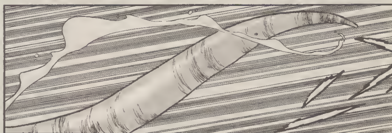

ご…ごちそーさま
なんやもうええんか
うん……ちょっと今日食欲ないの
ピクッ

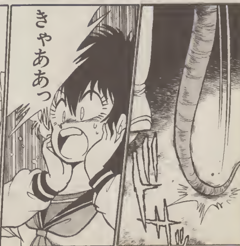

お…おいっ!!
モーナ!!


タク…あたいの体…なんかおかしいよ…
おかしいって…どっか痛むのか!?
おたおた
だれかあたいの中にいるみたい……
それが暴れてんの!!


なんやなんや
食当たり
かいな！
よ…よく
わかんないけど
医者よんだ方が
いいよ


やだあっ!!

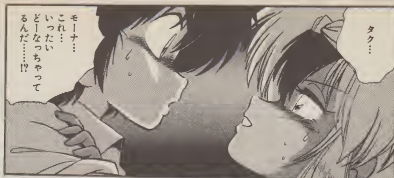


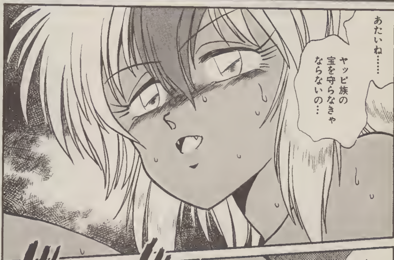

きゃああっ

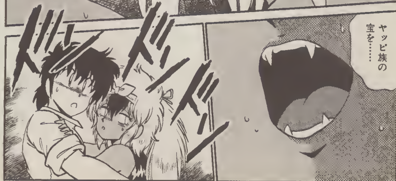

タク…!!
タク…!!
も…モーナが
……
えっ

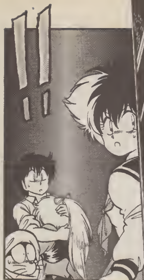

尻尾……




タク…
モーナ…
これ…
いったい
どーなっちゃってるんだ……!?


あたいね……
ヤッピ族の
宝を守らなきゃ
ならないの…


ヤッピ族の
宝を……

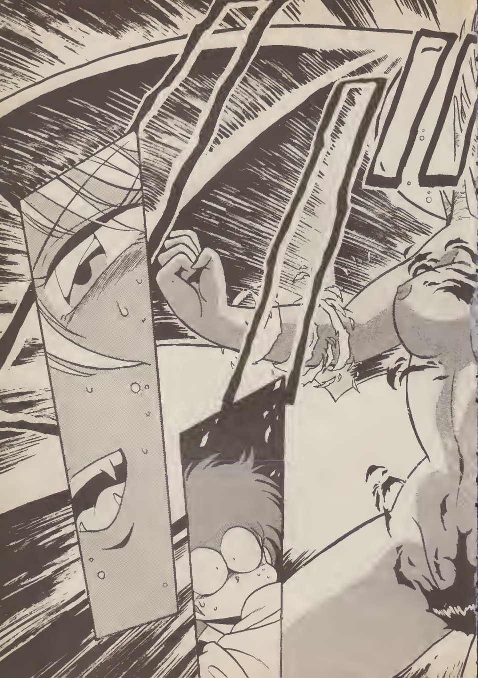


!!

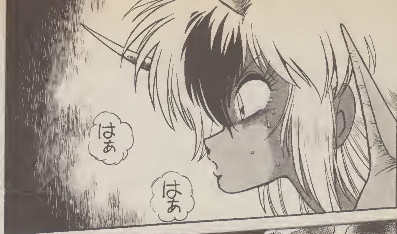
ガレッティのところの
ヤッピ族の
生き残りと
いうのは……
その娘か……

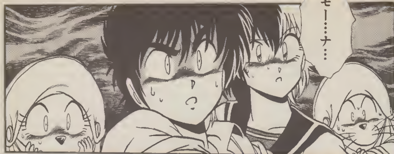
そ……
そーだけど
だれだ
あんた

うわああああ!!
わっ!!





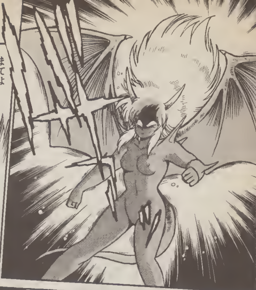

はぁ
はぁ

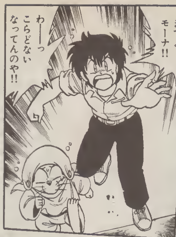

モー…ナ…


モーナ
俺たちのことが
わかるか？
気
しっかり
もたな
あかんで!!
モーナ
ワイや!!
ジルやで!!


ヤッピ族の
宝を侵す者が
いるの……
あたい
いかなきゃ……


行くって……
どこへ!!
宝って
なんだよ!!


まてよ
モーナ!!

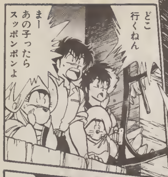

わーーっ
こらどない
なってんのや!!






ガシャーーン!!

モーナ!!


どこ行くねん
まーあの子ったらスッポンポンよ


あれがヤッピ族の成体……本来の姿だ
ええ?

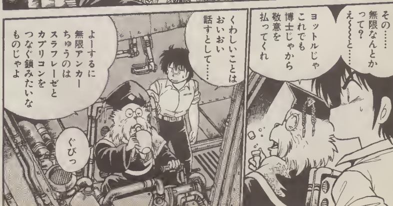

スラフレーゼとカプリコンを結ぶためうめられた無限アンカーの防人……
一生涯をその防人の使命に費す悲しい種族だ…




ACT8
ソルジャー・ドラゴン

ポツ
ポツ
ポツ ポツ
オルフの谷?

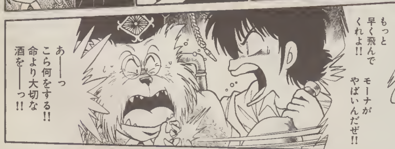




鎖？

軍の連中は昔からその存在を知っとったんじゃろ
百年前ヤッピ族が滅ぼされたのもその無限アンカーを手に入れるためじゃ

じゃ……じゃあモーナはそれを取り返しに!!
んなムチャな!!
チャプチャプ





あんたこそ少しおちつきなさいよ！
羽が生えようが角が生えようがモーナはモーナでしょ!!
そりゃそーだけど
せやけどどないしたんやろ今まであんなことなかったんやで
そうよ普通の女の子だったのよ
なにかあったんだ昨日の夜に……
え？
だってドロボウ追っかけてったことを全然覚えてねえし……
変な夢を見たっていってたろ
だからどーしたのさ？
と…とにかく昨日何かあったんだよ！ぜったいに!!
ぜったいに……
モゲ
ぜったいに……

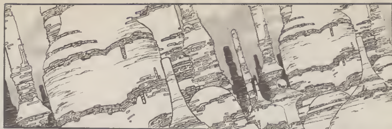
こりゃ
おそらく
ヤッピ族の
血を
覚醒させる
何かがあったん
じゃろ

だが今は
それを問題に
してる時じゃない

無限アンカーが
ゾルバの手に
渡ったのなら

やつの目的は
ひとつしか
ない……

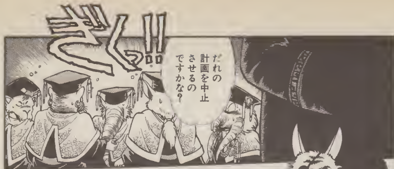





それで……


ですから
陛下！
一刻も早く
ゾルバ卿の
計画を
中止させねば……
このスラフレーゼが
滅びるというのか?

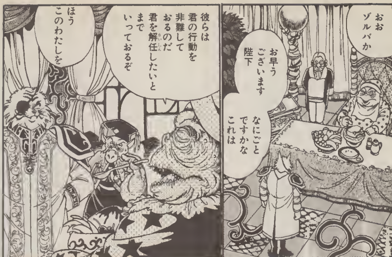

わ…我々は
ガレッティ博士の
いうことに
もっと
耳を傾ける
べきでした……
しかし
今からでも
まだ
間にあいます


ぎくっ!!
だれの計画を中止させるのですかな?


ゾルバ卿!!
これはこれは……




学務院のお偉い学者さんに評議会議員のおのおのがた
こんなに朝早くから何事ですかな?


おお
ゾルバか
お早う
ございます
陛下
なにごと
ですかな
これは
彼らは
君の行動を
非難して
おるのだ
君を解任したいと
まで
いっておるぞ
ほう
このわたしを


ゾルバ卿!
貴公の
カプリコン侵攻
計画を
我々は
さきほど知って
驚いている!!
そして
それが
もたらす
災害もだ!!
軍はこのような
計画を極秘で
進めて
おったのか?

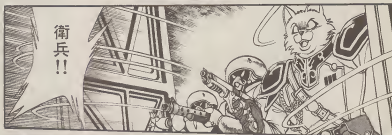

おやおや
何かと
思えば
そのような
ことですか
国家の頭脳が
そろいもそろって
なげかわしい……
証拠もある!
見たまえ
ガレッティ博士の
報告書だ!
これに
君の計画に
ついても
こと細かく
書かれておる!
ほう

そのような報告書は信用できませんな
なにをいう！ガレッティ博士はカプリコン調査の責任者だぞ!!
ならばなぜ正式な手続きで報告書を議会に提出しなかったのですかな！
どーいうルートで入手したかは知らないが……今頃出てきた報告書をだれが信じますか？
そのような怪文書はわたしにあらぬ疑いをかけおとしいれる陰謀に他ならん！
諸君らがわたしや軍に反感を持っているとは聞いてたが……
まさかそこまでしてこのわたしを……
え……いやちょっと待ってくれ
そーいうつもりではない……ただ我々は事実を……


なにが事実だ
わたしは
陛下および議会で
信任されておる
このわたしに
敵意を持つと
いうことは
すなわち国家への
反乱にあたるの
だぞ!!

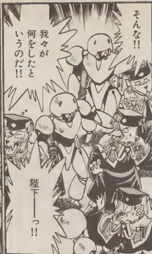

ばかを
いうな!!
我々は国家の
ためにもこの
報告書を…!!


陛下!
うむ
そちに
まかせる


衛兵!!

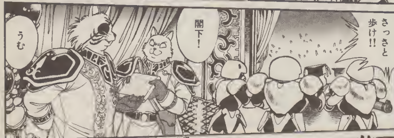

な……
なんだ
きさま
たちは!!
我々を
どーする
気だ!!


非常大権法に
基づき……
諸君らを
逮捕する!


そんな!!
我々が
何をしたと
いうのだ!!
陛下───っ!!

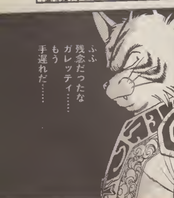

ゾルバ!
きさまは
必ず破滅する!
破滅するぞ!!


連れて行け!

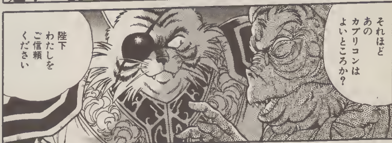

さっさと
歩け!!
閣下!
うむ


ドサッ




ふふ
残念だったな
ガレッティ……
もう
手遅れだ……


陛下　まことに　お騒がせしました
あ……　ちょっと　待て
念のために　聞くが　学者どものいう　君の計画と　やらは
わしに　新しい楽園を　もたらす　ためだったな


それほど　あの　カプリコンは　よいところか?
陛下　わたしを　ご信頼　ください


いや　それならよい　後のことは　わしにまかせて　がんばって　くれたまえ!!
それでは失礼　いたします!


うむ

国王陛下は完全に閣下をご信頼しておられますな

ふふ　あーいう目先の利益に走る食いぶくれは飼いならしやすい

まあせいぜい利用させてもらおう

陛下のご威光とやらをな!

閣下!

どうした全員連行したか

はっ　ただあの中にはヨットル博士がおりません

なにっ!　やつはガレッティの友人で最もマークしてたんだぞ

どうやらあの報告書はヨットルが入手したそうです

やつを二十四時間監視していたのではないのか!

申しわけありません……あやつ昼間っから酒を食らい寝てばかりいたのでつい……

バカモノ!!　たるんどるぞ　捜せ!!

もうよい！

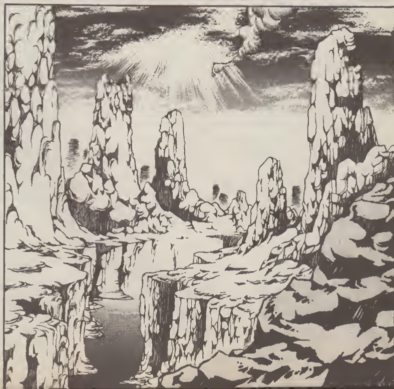
しかし閣下……やつは……

計画発動まであと一週間……

酔っ払い一人では何もできまい

ただし所在は確認しておけ

はっ!!

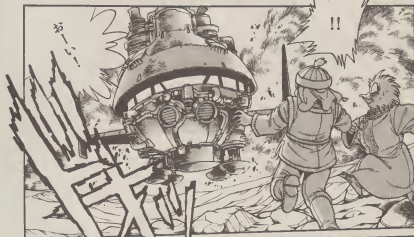
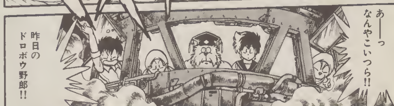


ここがオルフの谷かあ…
モーナはどこ行っちゃったんだろ……

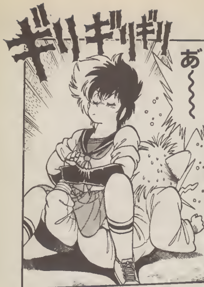
ねーちゃんなにか見える?
うーんだれもいないみたいよー
ちょっと待て無限アンカーの場所も書いとったはず……
＊とーぜんこの本はコピー本である

あの本モゲゲが届けたんでしょよくやったわね
モゲモゲ
どこだったかな……うーむ酒がないと集中力が出んな
うそこけ!

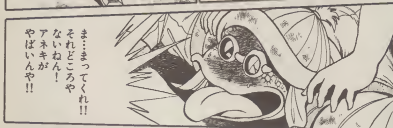
あーっだれかいる
どこやねん!
けどモーナじゃない…二人いるわ
モーナを見たかもしれないな
聞いてみよう


はぁ
はぁ
はぁ

!!
おーい!

あーーっ
なんやこいつら!!
昨日の
ドロボウ野郎!!

あわわわ
まてぇっ!!

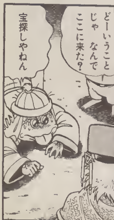

ギリギリギリ
あ〜〜〜


べじゃっ!!
逃がすかーっ!!
ぐえっ


ま…まってくれ!! それどころやないねん! アネキがやばいんや!!


アネキ? おまえらのボスのことか!!
あんさんらも手を貸してえやアネキを助けなあかんねん!!


バカいえ! なんで俺たちが…!!
まあ待て若いの

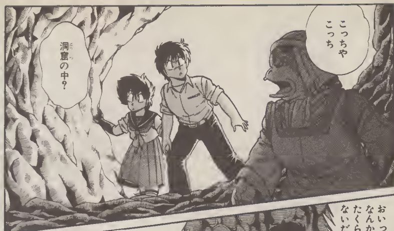

どーいうことじゃ なんでここに来た?
宝探しやねん

わいら アネキと三人で ヤッピ族の 宝を探してたんや
ほんでもって それらしい所に 入ったらいきなり…
翼の生えた 女と 巨人が襲って きおって……
ほらもう びっくりしたわ
翼の生えた女――?
ほんまやで
アネキが つかまってもうて ワイら 助けをよびに 出てきたんや
ほんとー? 逃げて きただけ じゃないの
ちゃ…… ちゃうわい!
ワイらかて アネキが おらんと 困るねん……
なんやかんやで 世話に なったもんな~~
どこだよ 場所は!! 早く案内しろって!!
わ…… わかったがな

しかし おかしいのう
軍がここを押さえたのに 兵隊が一人も おらん






こっちや
こっち
洞窟の中?

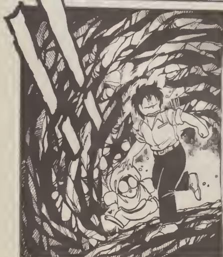

おいっ!
なんか
たくらんでるんじゃ
ないだろーな!!
アホいうな!
ドロボウだって
たまには
まともなこと
いうわい!!
たまには
ね……


博士……
おそらく
この奥に
無限アンカーが
あるんじゃろ
じゃあ
モーナは
それを守って
いるのかあ
防人として
目覚めたなら
侵入者を
許しはしまい
え――
それじゃ
アネキは――
あぶない
かもなー


うわわぁあああ
アネキの
声や!!
!!

今のあの子は
侵入者を
殺すことしか
頭にない!
無益な
殺傷は
やめさせるんじゃ!!

ちくしょう
モーナ!!
どこやねーん!!

モーナ!!
アネキ――っ!!



モーナ!!

また
侵入者か……!
モーナ……
俺だよ
タクだ!!
みんなも
来てるんだぞ!!
あんたたちも
こいつの仲間
だな……
俺たちのことが
わかんないのかよ
ヤッピ族の宝を
どこにやったのさ!!
知らねえって
いってるだろ…

俺は宝が何かということも知らなかったんだぜ……

まだそんなこといってるのかよ

無いのか……？無限アンカーが……

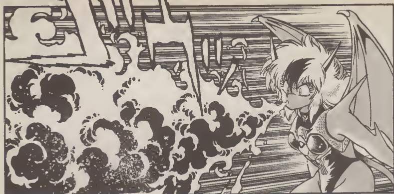
モーナ!!

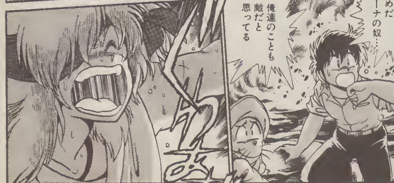
なら死ね!!

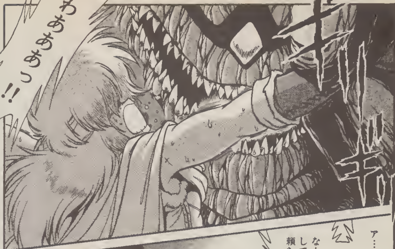
だめだやめろ――っ!!

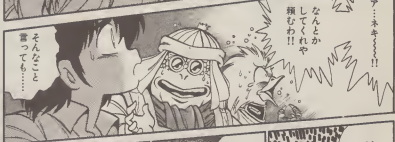

ACT9
ビバ・ゴーラム


モーナ!!
だめだ
殺しちゃ!!
そ…そや
アネキも
悪気が
あったんと
ちゃうねん!!
ちょっとは
あったよーな
気がするけど…

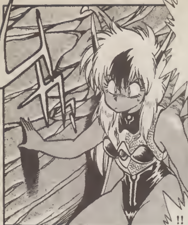


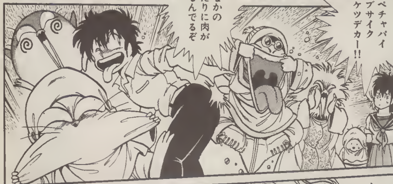
ZWAAAA
うわっ!!

だめだ
モーナの奴…
俺達のことも
敵だと
思ってる

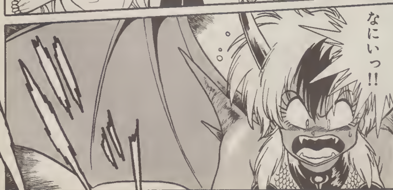

ギリギリ
ぐわあああっ!!


ア…ネキ〜〜!!
なんとかしてくれや頼むわ!!
そんなこと言っても……

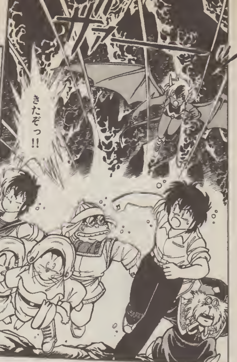

!!
ちょっと耳かして
コソコソ
なんやなんや
おーいっそこのあばずれ女〜っ!!


それとも
性悪女かーっ!!
なんとか
いってみろーっ
羽があるけど
飛べないんだろ!
ワーハッハッハッ

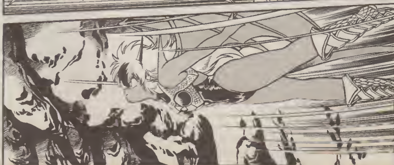

ペチャパイ
ブサイク
ケツデカー!!
おなかの
あたりに肉が
たるんでるぞ!!

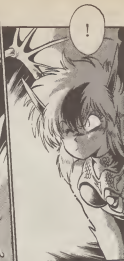

なにいっ!!

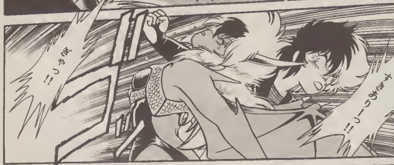

にげろ！
にげろ！


きたぞっ!!


まていっ!!




!


すきありーっ!!
ぎゃっ!!

それっ
いまだ!!

わーっ!!
おさえ
つけろーっ!!

よーし！
ねーちゃん
足おさえて!!

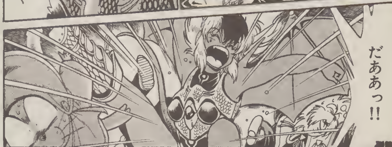
はなせーっ!!
このやろ!!

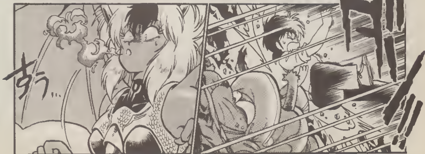
おろ
おろ

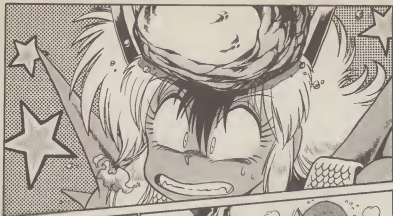
暴れるなっ
ちゅーに!!

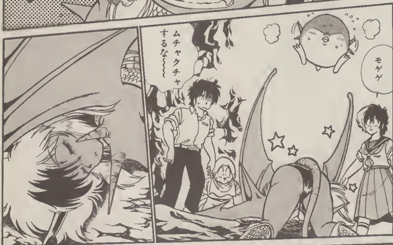
博士
何やってん
だよ!!

うぐぐぐ





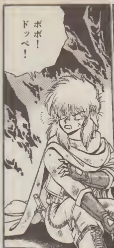



モゲゲ
ムチャクチャするな〜〜〜

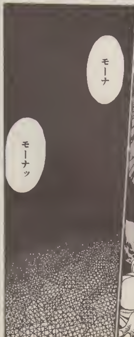

……
つおっ？

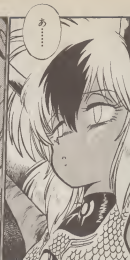

ドサッ
いでっ!!

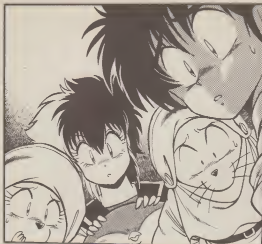

アネキーっ
大丈夫でっかーっ!!

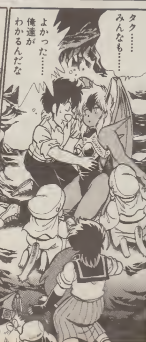

ボボ！
ドッペ！

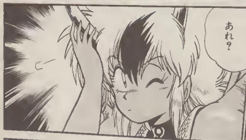

ズズズズズ……
ど…どう
なっちまったんだ…

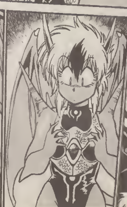

モーナ
モーナッ


あ……

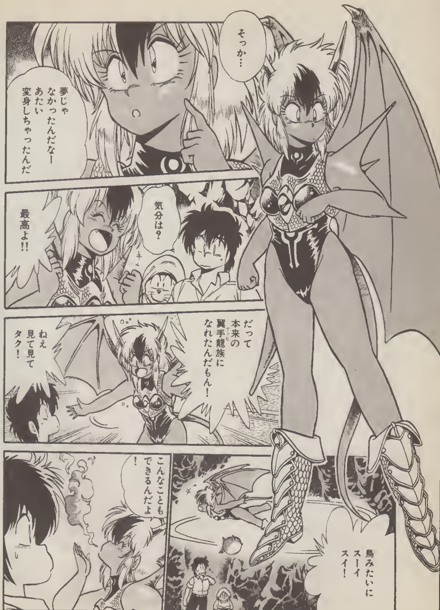


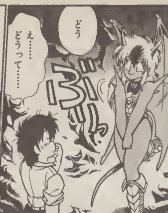

タク……
みんなも……
よかった……
俺達が
わかるんだな

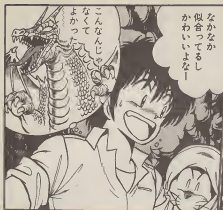

あれ？

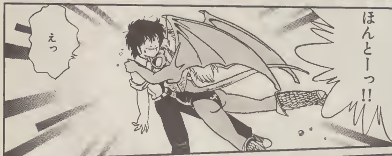


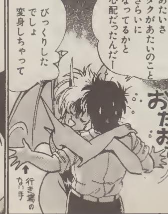

ブン!!

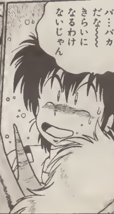

そっか…
夢じゃ なかったんだなー あたい 変身しちゃったんだ
気分は？
最高よ!!
だって本来の翼手龍族になれたんだもん！
ねえ見て見てタク！
鳥みたいにスーイスイ！
こんなこともできるんだよ！


どう
え……
どうって……
ぶりっ


なかなか
似合ってるし
かわいいよなー
こんなんじゃ
なくて
よかった


ほんとーっ!!
えっ


あたいさ
タクがあたいのこと
きらいに
なってるかと
心配だったんだー
びっくりした
でしょ
変身しちゃって
おたおた
行き場の
ない手

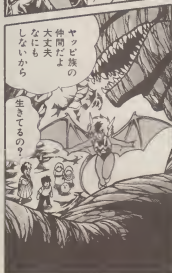

バ…バカ
だな～～
きらいに
なるわけ
ないじゃん


ウォホン


！
な……
なんだよ
おー－っ
おあつい
こと！
近頃の
若い者は
ほんとに…
TPOを
わきまえて
ちょうだい
プー

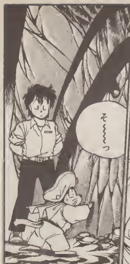

あれ
あいつら
いないぞ
逃げたんやな
恩知らずな
やっちゃ!!
ほんま

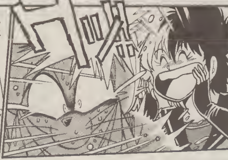

ところでさ
このでっかい
の何……？
巨人
ゴーラム！


ヤッピ族の
仲間だよ
大丈夫
なにも
しないから
生きてるの？


ううん
あたいが
脳波で動かし
てるの……

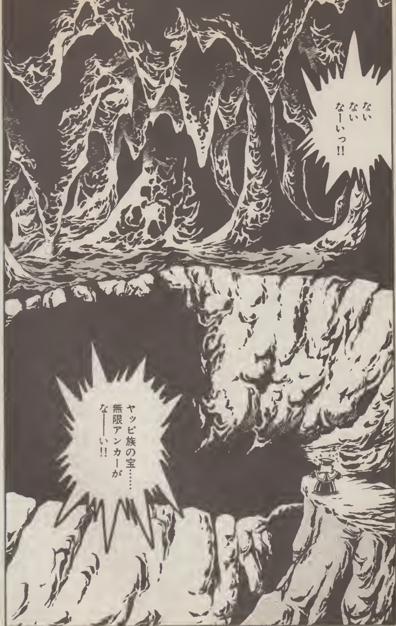

ふーん
じゃあ
ロボットと
いうか
からくり人形と
いうか……
ほんまに
動くのやろな！


そ〜〜〜っ




あほ
——っ!!
ゴメン
ゴメン

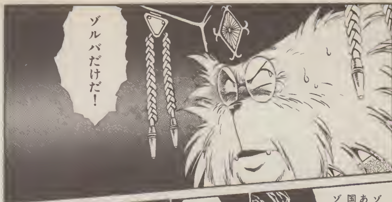

ない……


ない
ない
なーいっ!!
ヤッピ族の宝……
無限アンカーが
な――い!!

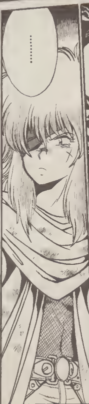

だれが一体……
どこへ……
そのヤッピ族の宝ってのはなんなんだ？


なんじゃさっそくこそ泥か…
よせよせ金になるようなもんじゃないわい
そりゃねーだろあんな化け物が守ってんだ
高価なもんがあるって証拠だぜ！

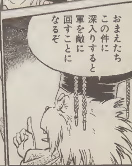

ねえアネキもうやめましょうぜ～
うるせえここまで来ておめおめ帰れるかって
おうそれともその宝ってのは学者さんにしか価値がねえってんじゃねーだろーな
いや真の価値がわかっておるのは

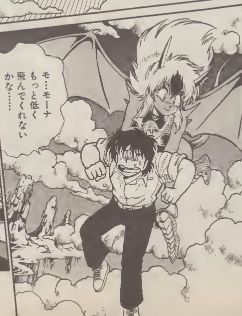

ゾルバだけだ！


ゾルバ？
あの
国防大臣の
ゾルバ卿か!?
そーじゃ


……


……
アネキ〜〜
やっぱやばい
すよ〜〜

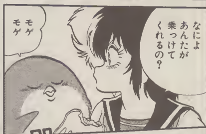

おまえたち
この件に
深入りすると
軍を敵に
回すことに
なるぞ


モ…モーナ
もっと低く
飛んでくれない
かな……


え〜〜〜
高いとこ
弱いんだよ
俺!!

なんだよ
タクのやつだけ
いいな〜〜っ!!



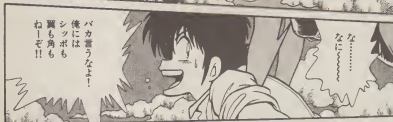
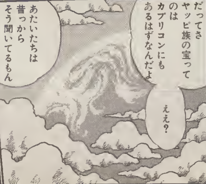









あたい
さっき考えて
たんだけど
ふ

タクと
タクのおねーちゃん
あたいと
同族じゃない
かな〜〜〜

な………
なに〜〜〜
バカ言うなよ!
俺には
シッポも
翼も角も
ねーぞ!!

だってさ
ヤッピ族の宝って
のは
カプリコンにも
あるはずなんだよ
ええ?
あたいたちは
昔っから
そう聞いてるもん

あたいたち
その防人なら
カプリコンにも
防人やる人が
いるんじゃ
ないの?
それが
俺たちだって
いうのかよ

だって タクたち 次元を越えて カプリコンから きたじゃない

好きで きたんじゃ ねーよ!!

普通の人間は そんなこと できないよ

あの時は 目の前が 真白になって ……

でもそんな ことが 理由には ならねーじゃん

でも あたいは 信じてる

スラフレーゼで たった一人の 防人のあたいを 助けるために

タクたちが カプリコンから 来たんだって……

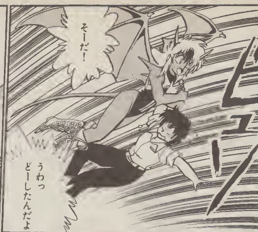
ふ〜〜ん……

そりゃまあ モーナの お好きなよーに ……

なんだよ〜 落とすぞ

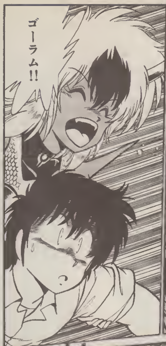
わー ごめんなさい! 悪かった!!

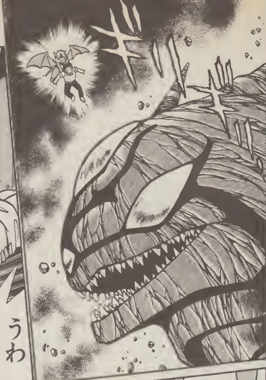
!

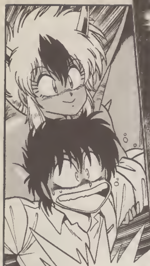

そーだ!
うわっ どーしたんだよ
ビューー!

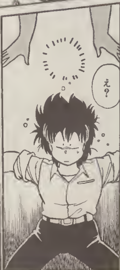

あれーっ どこ行くんだろ あの二人?
はぁ
はぁ


おい
ちょっとモーナ!!
何する気だよ!
いいから
いいから


ゴーラム!!




うわうわうわ〜〜〜〜っ!!


え?



うわっ!!

!!

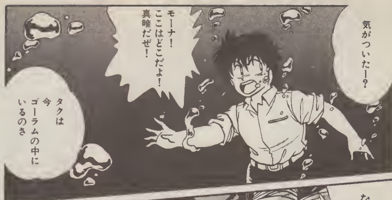

ターク!
ターク!!

!!

ターク!!
わたわた

こらーっ タクー
聞こえないのかよ
――っ!!

な…なんだよ ここは……


気がついたー？
モーナ！
ここはどこだよ！
真暗だぜ！
タクは
今
ゴーラムの中に
いるのさ


なにく〜〜っ!!
ゴーラムは
あたいの脳波で
あやつってた
けどさ
今から
タクが
動かすんだよ


なーんで
俺が!!
やだよ
こんな暗いとこ
!!
ゴーラムは
昔はたくさん
いたんだ……
ヤッピ族と
一緒に
宝を守って
たんだけど……
百年ほど前
ここが軍に占領
された時
みんなやられ
ちゃって……

これが最後の一人なの…

あたいその最後の一人をタクに動かしてもらうんだ!

こらっ勝手に決めるな!!

だってタクならあたいに協力してくれるでしょ!

協力って……何する気なんだモーナ!!

決まってるじゃんヤッピ族の宝を取り返すんだ!!

ヤッピ族の使命だもん!!

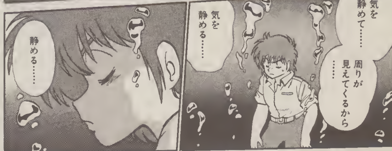
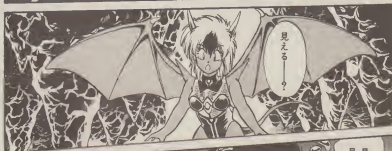
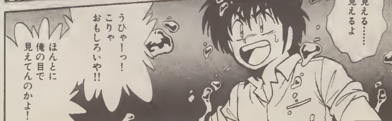
そんなやばいこと俺ができるわけねーだろ!!

第一こんなもの俺が動かせるわけねーじゃん!!

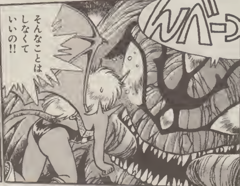
俺チャリンコしか乗れねーんだぞ

だーいじょーぶ!!この中に入ればタクとゴーラムは一心同体だもん

強く念じればゴーラムと同調できるよ

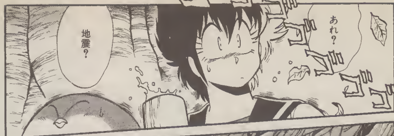

やってみて！やってみて！
んなムチャな――知らねーぞ俺……

気を静めて……
周りが見えてくるから……
気を静める……
静める……

見える――？

見える……見えるよ
うひゃーっ！こりゃおもしろいや!!
ほんとに俺の目で見えてんのかよ！


今
タクはゴーラムの
目を通して
見てんだよ!
どう?
ゴーラムの体が
自分のものに
なった感じだろ


んべーっ
そんなことは
しなくて
いいの!!


なーんだ
こりゃ簡単だ
だれでも
動かせら!


よーし!!


あれ？
地震？

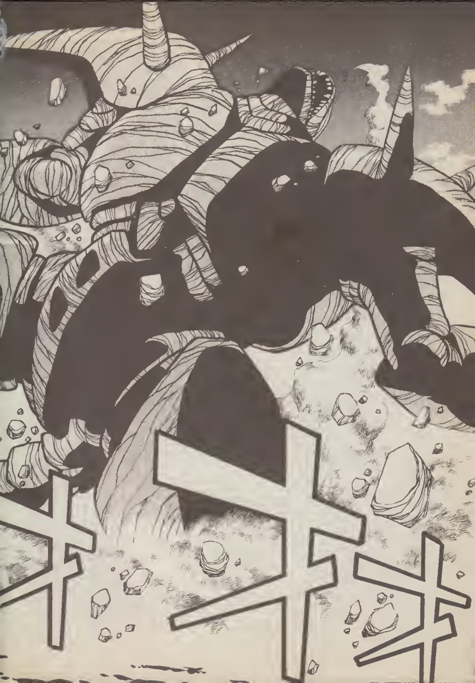

ドドドドド

な…なんやねん あら洞窟の中に おった巨人や ないか!!

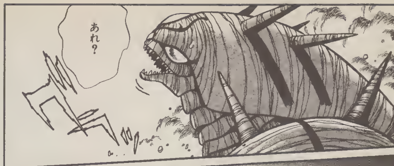
び…びっくり させんじゃないよ!!

あらあら モーナったら あんなの家に 持って帰る気 かしら

モ…モゲ〜〜〜

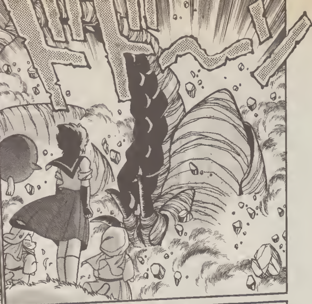



ドキ
ACT10
そして、戦い

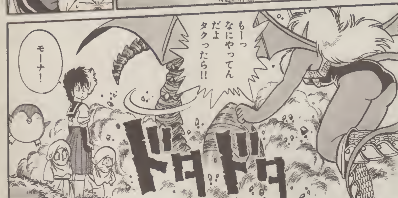

あれ？

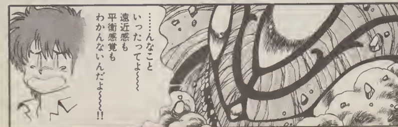
あれ
あれ
あれ〜〜〜っ？

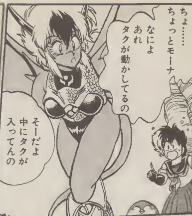

な…なんか様子がおかしいんとちゃうか？
そーみたいねー
ほっほっほひょーきんなところあるのねあの巨人さん

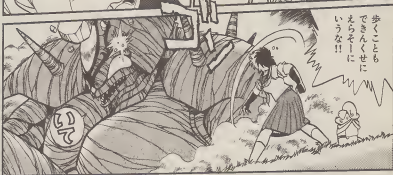

ドドドーン


なにあれ……


もーっ
なにやってんだよ
タクったら!!
モーナ!
ドタドタ


……んなこと
いったってよ~~
遠近感も
平衡感覚も
わかんないんだよ~~!!


ちょ……
ちょっとモーナ
なによ
あれ
タクが動かしてるの
そーだよ
中にタクが
入ってんの

へへへ
すげーだろ
ねーちゃん
こいつなら
ねーちゃんと
プロレスしても
負けねーぜ

歩くことも
できんくせに
えらそーに
いうな!!

さあ
タク
練習よ!
なれれば
思い通り
動かせるん
だから
ほんとーに
これで
ドンパチ
するの?

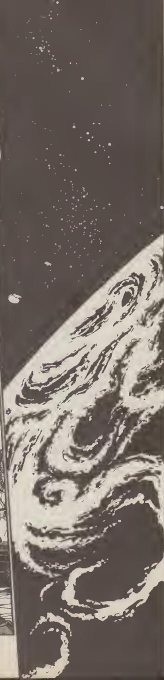
無限アンカーを
取りもどすには
ゴーラムの力が
絶対いるんだよ
へえ〜〜〜い

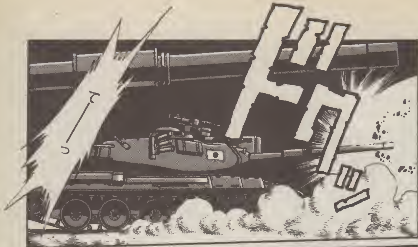
ほら がんばって がんばって!

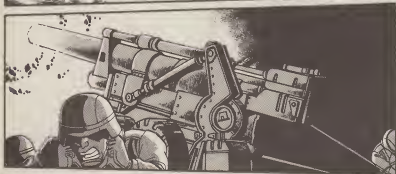
へえ へえ

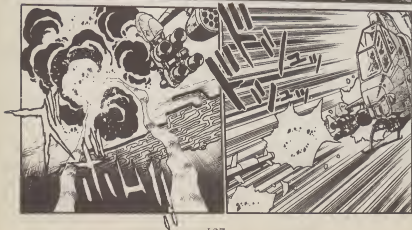




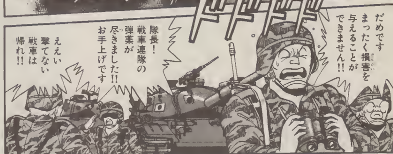

ドゴッ
ドタタッ
パンパン
ドムドム

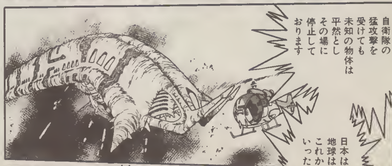

てーっ
ドカッ




ドシュッ
ドシュッ

ドムドム
ドタタタ
BOM
BOM
ドドドド







島村卓 都立中学二年
姉 島村環 都立高校一年
するとこの二人が我々ディフェンダーの一員としてスラフレーゼに派遣されたのですか……
しかしなぜ子供が……
それはわからない…
我々ディフェンダーは地球とスラフレーゼ両方で独自の発展をとげた……
この二人にはディフェンダーとしての意識はなかろう
向こうで戦力になっているのでしょうか……
我々自身長い年月の間ディフェンダーとしての力を失っている
だが我々としても手をこまねいて見ているわけではない!

現在アメリカの戦闘衛星ハーキュリーズーが日本上空静止軌道上にある

装備している荷電粒子砲なら地下3キロまで完全破壊が可能だ

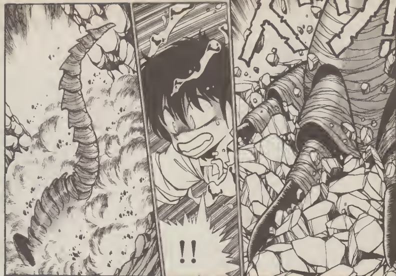
また同時に日本海よりソ連原潜デルタⅣ級ドグレンコが東京に熱核攻撃

地表で爆発させれば爆発圏は最低ながらかなりの地下を破壊できよう

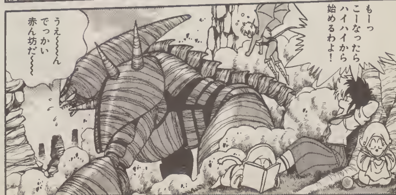
荷電粒子砲に……熱核攻撃……

東京はどうなるんです!?

人類のため我々のなすべき最善の手段だ
まってください！
子供とはいえこの二人はディフェンダーです！
彼らからの朗報をぎりぎりまで待ってもいいのでは……
たしかにそうだ……だが時間はあまりない！
接触臨界点まであと一三六時間…
五日とちょっとか…
無限アンカーが始動するともはや我々にはどうすることもできない
人類は滅亡すると……
そうだ…！
滅亡か……


ズバババッ!!
!!


ドドドド〜ン
ぜーんぜん
進歩
あらへんな
〜〜〜
まっ
タクの運動
神経なら
あんなもんだろ


もーっ
こーなったら
ハイハイから
始めるわよ!
うえ〜〜〜ん
でっかい
赤ん坊だ〜〜〜

なんじゃあなにやっとるんじゃモーナは
あーら博士どこ行ってたのさ
あれはタクにあのでっかいのを動かさせてるの
どーする気じゃあんなもん
おっそれより無限アンカーの場所がわかったぞ
えっどーやって調べたの〜〜
どこやねん
ちょっと船で資料を調べておったんじゃ！
だが……今度はおいそれと手を出せんところじゃ……

なにいっ!?
オルフの谷で巨人が動いてるだと!!
パトロールからの報告です 探知機にもかかっています!
なんと…!!
まさか……
いや一体だけまだ残っていたのが…
しかし あの巨人を動かせるのはヤッピ族だけだが…
……ていうと あいつか!!
あの小娘か……!!
ようし 防空師団から一個中隊をオルフの谷に向かわせろ!!
はっ
俺が直接指揮をとる!!

え〜〜〜っ
無限アンカーは
国防省の地下に〜っ!?

まちがい
あるまい
ヤッピ族が
攻撃されたのが
百二十年前

国防省の
建物は
そのすぐ後に
建設されておる

でも
なんで
わざわざ……

考えてみい
こんな山奥に
軍隊が
ウロウロしていたら
すぐに
かんぐられる
じゃろが

その点
国防省内は
軍事機密保護
ということで
議会や政府さえ
立ち入れん

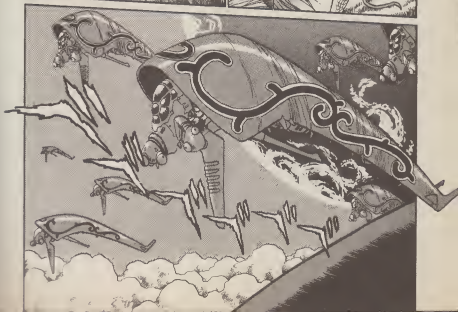
軍は
だれの目も
はばからず
無限アンカーの
研究が
できるっちゅう
わけじゃ

おーい
何の話
してんだ——っ

いいから
タクは
練習してなよ!!

いや……
だってよ~~

なんか向こうから
ワンサカ
飛んでくるぜー!

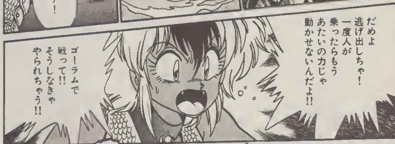


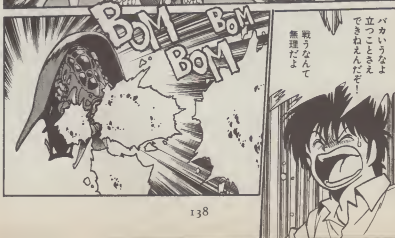
ブシュッ
ブシュッ

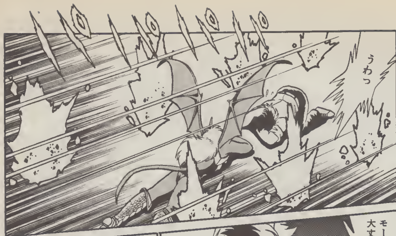


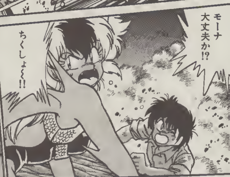


わーっ もういやだ!
死んじゃうよ!!
まって!!
モーナ!

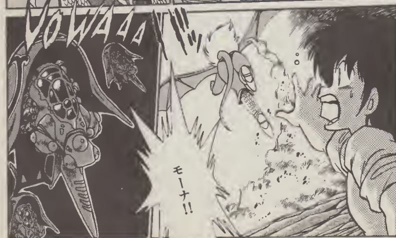

だめよ 逃げ出しちゃ! 一度人が 乗ったらもう あたいの力じゃ 動かせないんだよ!!
ゴーラムで 戦って!! そうしなきゃ やられちゃう!!


バカいうなよ 立つことさえ できねえんだぞ!
戦うなんて 無理だよ
BOM
BOM
BOM


うわっ


モーナ
大丈夫か!?
ちくしょく!!

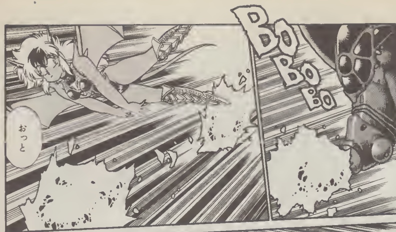

いいよ
ゴーラムは
あたいが守る!!

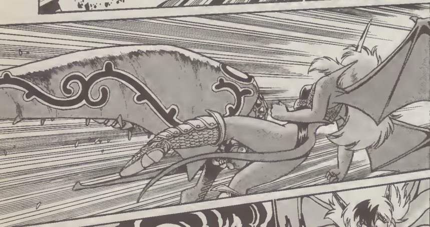

VOWAAA
モーナ!!

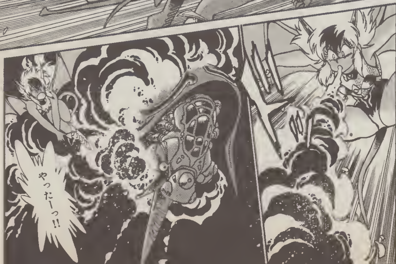

モーナ……




ちくしょう
もう
やるっきゃねえ!!


BO BO BO BO
おっと

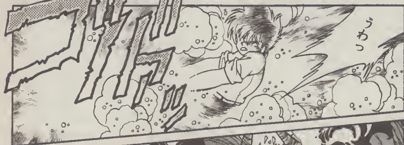



やったーっ!!

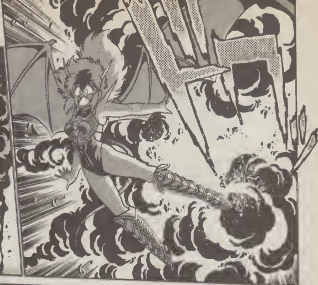


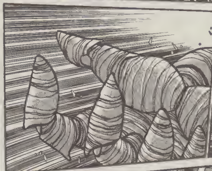


こなくそ〜〜っ!!


うわっ



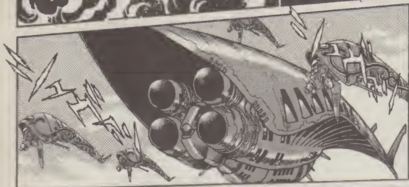


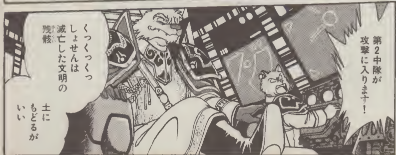

モーナ!!


ポテッ

おい
大丈夫か!

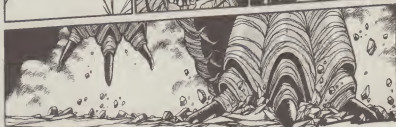
タク……

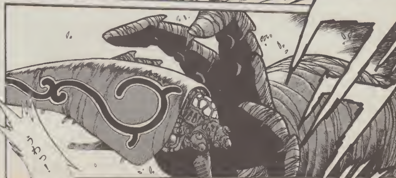




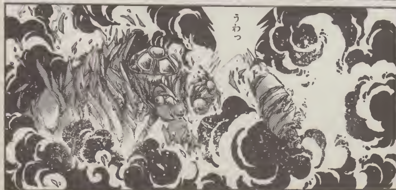
第2中隊が攻撃に入ります！
くっくっくっ しょせんは 滅亡した文明の 残骸
土に もどるが いい

ちくしょう〜〜〜っ!!
歩け〜〜〜っ!!

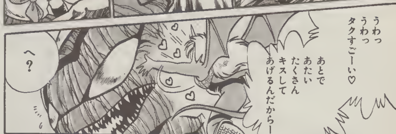


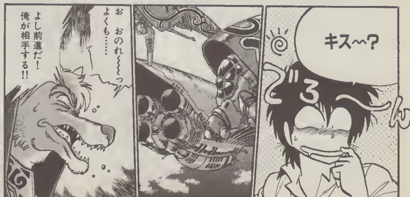



ゴキャ

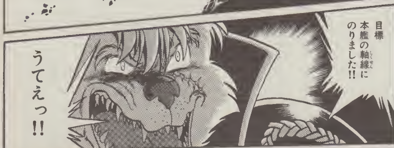

うわっ

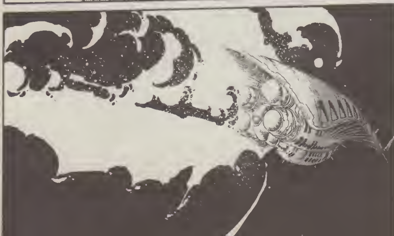
しっぽーっ!!
おーっ なかなか やるやんけ
まあ タクは やけくそになると けっこう強いんだ よね——

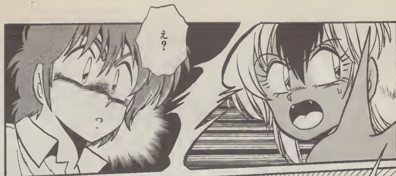




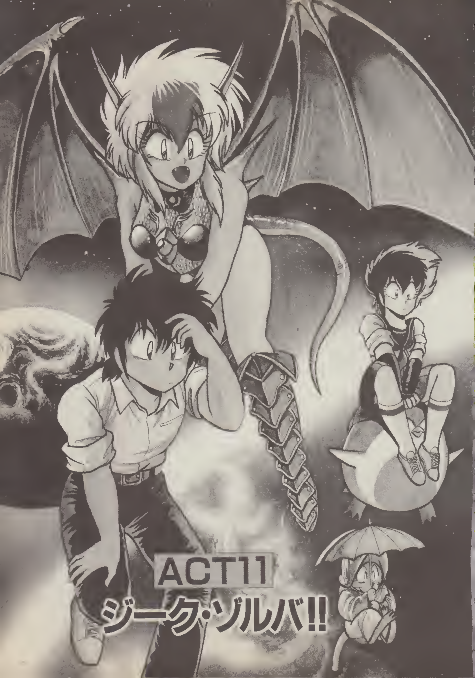
主砲射撃用意!!
圧力弁開放！全エネルギーを主砲へ!!







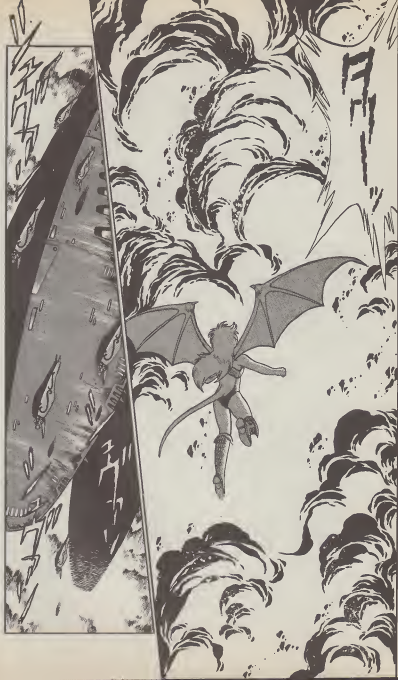
うわ!!

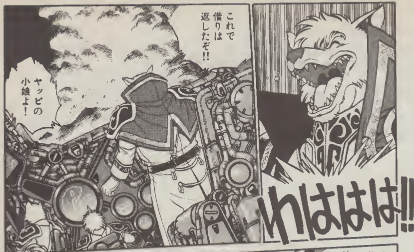

ACT11
ジーク・ゾルバ!!

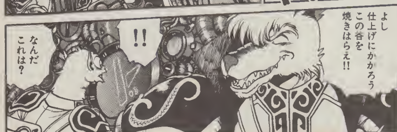


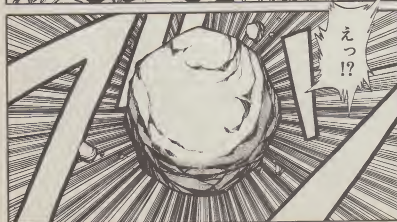

きゃあああっ


タク!!




これで
借りは
返したぞ!!
ヤッピの
小娘よ!
わははは!!


よし
仕上げにかかろう
この谷を
焼きはらえ!!
!!
なんだ
これは?

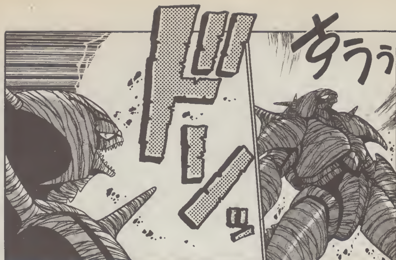

えっ
!?

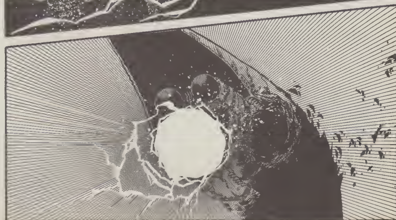

うわあああっ
第二・第三反応炉損傷!!
制御弁もふっ飛びました!機関停止!!
高度を維持できない!落ちます!!

ズズズズズ

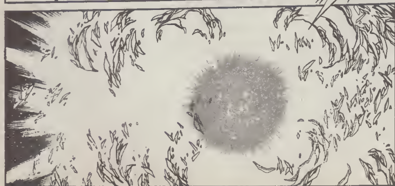
そら見ろ ゴーラムが そー簡単に やられるわけ ないじゃん!!








ぐわああっ

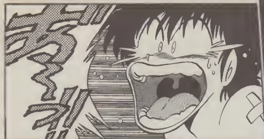


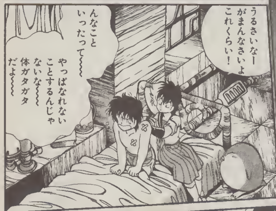


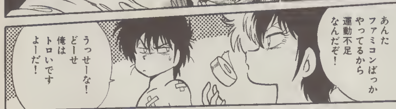

やった
やった――っ!!
タクが
やった――っ!!

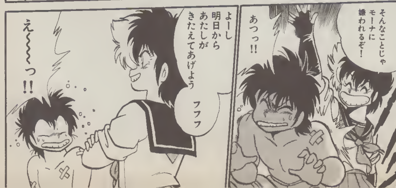

何を
やったねん…
知らないわよ…
モゲ〜〜〜

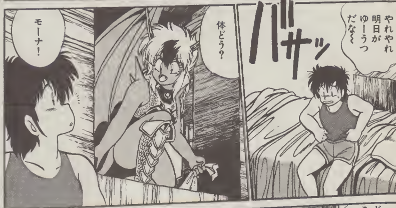



ぎゃ〜っ!!

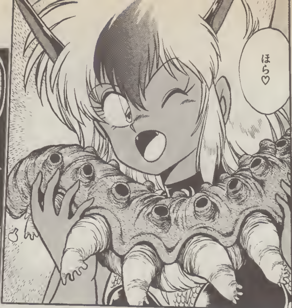

うるさいなー
がまんなさいよ
これくらい!
んなこと
いったって〜〜
やっぱなれない
ことするんじゃ
ないな〜〜
体ガタガタ
だよ〜〜


あんた
ファミコンばっか
やってるから
運動不足
なんだぞ!
うっせーな!
どーせ
俺は
トロいです
よーだ!

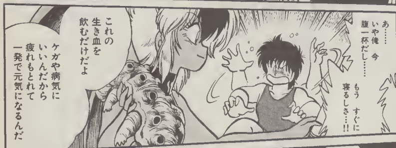

そんなことじゃ
モーナに
嫌われるぞ!
あつっ!!
よーし
明日から
あたしが
きたえてあげよう
フフフ
え〜〜っ!!


やれやれ明日がゆーうつだな〜
バサッ
体どう？
モーナ！


どこ行ってたんだこんな時間にさ
うんちょっと狩りしてたの
タクに元気になってもらおうと思ってさ

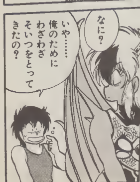

ほら♡

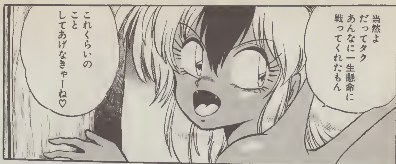


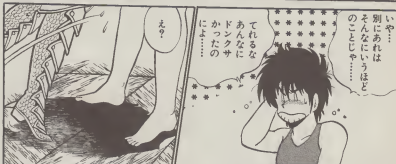

あ……
いや俺 今
腹一杯だし……
もう すぐに
寝るしさ…!!
これの
生き血を
飲むだけだよ
ケガや病気に
いいんだから
疲れもとれて
一発で元気になるんだ


生き血ねえ…

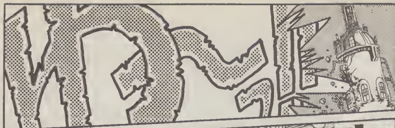
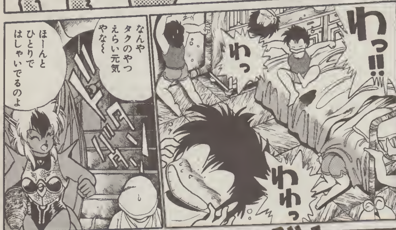
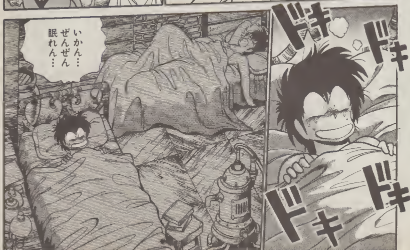

じゃあ あたい
下でつくって
くるね
あっ
ちょっと
モーナ!


なに?
いや……
俺のために
わざわざ
そいつをとって
きたの?





ありがと タク
☆○☆○×
きゃはは 約束してたもんね キスしてあげるって


ドーン

わっ!!
わっ
わわっ
なんや
タクのやつ
えらい元気
やな〜
ほーんと
ひとりで
はしゃいでるのよ

ドキ
ドキ
いかん…
ぜんぜん
眠れん…
ドキ
ドキ

国防省

定数は確保できているだろうな

もちろんです

ここの他 軍の関連工場一一二ヵ所でヤッピ族の増産が続けられております

すべて遺伝子情報を操作した特殊強化タイプです

発動時にはカプリコンの全空をヤッピ族が覆う光景がごらんになれるでしょう

太古の大空と同じだな

このような太古の原始翼龍の仲間が貴重な戦力になるとは意外ですね

彼らだけがスラフレーゼとカプリコンをつなぐ大気の中を自由に飛べるのだ

滅ぼすには惜しい存在だ 軍が永年遺伝子を保存した理由もそこにある

無限アンカーのほうはいかがですかな

48時間後に予備機が始動する

無限アンカーといいヤッピ族といい

先史文明の遺産が我々の元でよみがえるのだよ

これからも古き物は保存せねばなりませんな

はははは

しかし閣下ひとつ気になることが…

ガレッティのところのヤッピ族のことか?

はあ……

ガレッティの近くにいたのなら我々の計画について何か聞いていると思います

先日もオルフの谷で巨人を動かし警備隊と交戦し……

またあのヨットル博士も出入りしていると……

ははははヤッピ族とはいえしょせんは子供!

巨人で砂遊び程度のことしかできんだろうな

念のため明日戒厳令が施行されたなら全員を逮捕しろ!

あの娘には自分の同類に会わせてやる

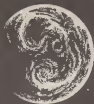
バルターはどうした?

はっ重傷ですがなんとか…

ふん少々頭を冷やすがよかろう

クソ〜〜〜

覚えてやがれあのトカゲ女が……

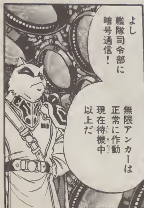




敵は攻撃を中止したもようです

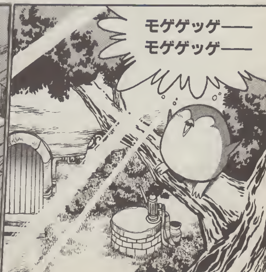
なんだもう終わりか暇つぶしにちょうどよかったのにな





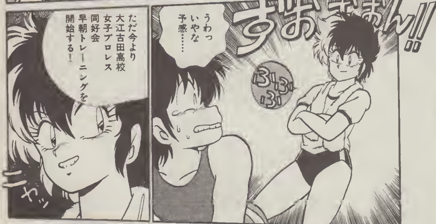


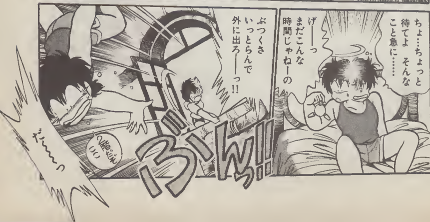

モゲッゲッゲー!!


モゲゲッゲ――
モゲゲッゲ――


う〜〜ん


起きろ
起きろ
起きろ――っ!!
いつまで
寝てんのよ!
しゃきっと
なさい
しゃきっと!!
?

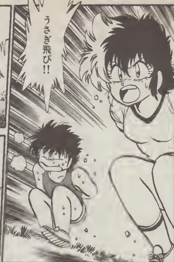

ずおぎおん!!
ふふふ
うわっ
いやな
予感……
ただ今より
大江古田高校
女子プロレス
同好会
早朝トレーニングを
開始する!
ニヤッ


ちょ…ちょっと
待てよ　そんな
こと急に……
げ――っ
まだこんな
時間じゃねーの
ぶつくさ
いっとらんで
外に出ろ――っ!!
ぶんっ!!

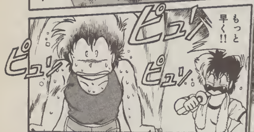


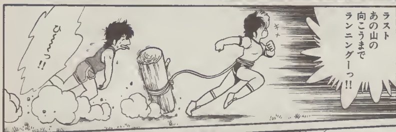

二十八！
二十九！
だらしないわね
腕立て三十回も
できないのかよ!!

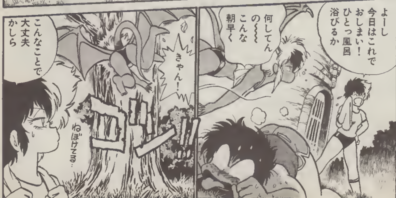

そんなことで
あの巨人を
動かせるか!!
さ〜んじゅ〜う
死んだ
あと
九七〇回も
残ってる
だろ！

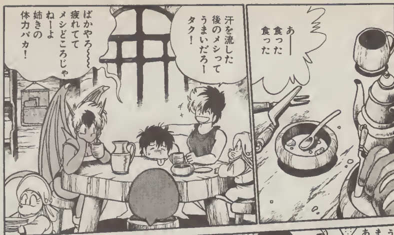

うさぎ飛び!!


二十七
二十八
二十九
あと
八十!

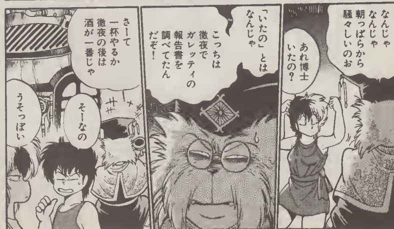

もっと
早く!!
ピュッ
ピュッ
ピュッ


ラスト
あの山の
向こうまで
ランニングーっ!!
ひ〜〜〜っ!!

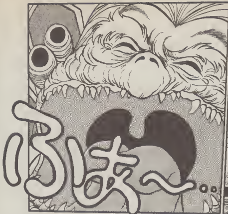

よーし
今日はこれで
おしまい!
ひとっ風呂
浴びるか
何してんの〜〜
こんな
朝早く
きゃん!
ねぼけてる…
こんなことで
大丈夫
かしら


あ━
食った
食った
汗を流した
後のメシって
うまいだろー
タク！
ばかやろ〜〜〜
疲れてて
メシどころじゃ
ねーよ
姉きの
体力バカ！


うーん
まだエネルギーが
あり余ってんな
疲れてる
んなら
また生き血
飲めば
いいんだよ
え〜〜〜っ
!?


なんじゃ
なんじゃ
朝っぱらから
騒々しいのお
あれ博士
いたの？
「いたの」とは
なんじゃ
こっちは
徹夜で
ガレッティの
報告書を
調べてたん
だぞ！
さーて
一杯やるか
徹夜の後は
酒が一番じゃ
そーなの
うそっぽい

どうもやばい雰囲気じゃ……
学務院の他の学者たちと連絡がとれん……
彼らもガレッティの報告書に目を通したはず…
なのに何の動きもないところを見るとゾルバに捕えられたかもしれん
ダンッ
やれ…やれ…どーしたものか…
もう時間もない……
ちょっとまってくれよ
俺たちまだその報告書の中身について聞いてないぞ
おっそうか話さにゃならんな
じゃがちいっとばかしむずかしいぞ
こらこらこら――っ!!

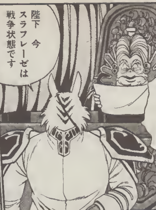

ふぁ～…


なんじゃ
ゾルバ卿
こんな朝早くから
昨夜
議会でこの
法案が成立
しました
よって
陛下の
ご承認を
いただきたく
まいりました

なんじゃ
そんなことか
よっしゃ
よっしゃ

ん…？
なんじゃ
これは…？

戒厳令および
非常動員令
です

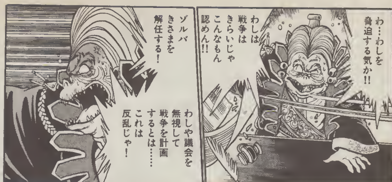

じゃが
議会の解散
現行憲法の
停止……
国防大臣を
長とする
陸海空三軍による
軍事評議会の
設定……
これでは
軍政ではないか!!
陸下　今
スラフレーゼは
戦争状態です


な…なんじゃと……


そう
陛下のお望みの
楽園を
手に入れるための
戦争です!
戦争には
あらゆる国家権力と
国力を集中
せねばなりません


ご承認を!!


ご承認
願います
閣下!
ゾルバ……
きさま……


わ…わしを脅迫する気か!!
わしは戦争はきらいじゃこんなもん認めん!!
わしや議会を無視して戦争を計画するとは……これは反乱じゃ!
ゾルバきさまを解任する!

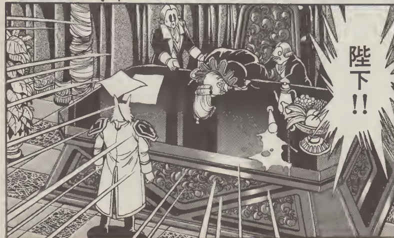

陛下……何かひとつお忘れではありませんかな
陛下の国王のイスは軍の支持があってこそ成り立っているのですぞ!!

きさまぁ!!

プツン







陛下!!


ゴーン
ゴーン
ゴーン



地球が
大昔
こっちの世界に
あって
スラフレーゼと…

えーと
なんだっけ…?

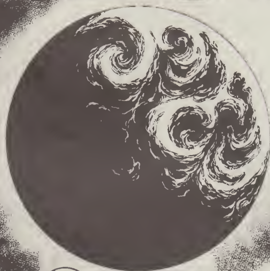
二重惑星

でも
次元の壁を
こえたところに
地球と
兄弟星が
あるなんて……

だれも
信じちゃ
くれないわ

でも
どんなんだったの
かな
地球とスラフレーゼが
二重惑星だった
様子って……

大きさは
ほとんど
変わんないんだよ


二つの星の間に
薄いながらも
大気があったって
博士は
いってるけどね……
なんや
妙な
光景やったろーな

その頃のカプリコンには何もなかった……原始的なジャングルと巨大トカゲぐらいじゃったとある
だがスラフレーゼのほうには我々の文明のはるか昔の先史文明があったらしい
そーいやこの星じゃときたま正体不明の遺跡が見つかるんやで
そいつが先史文明？
その連中地球に来たことあるのかな？
二重惑星に異変があった
二つの星の重力バランスがくずれたのだ
そのバランスの狂いは深刻なものになり……
ついにはどちらかが爆発して砕けちるしかなかった……

それを防ぐため先史文明人は二つの星に無限アンカーを設置したんだ…

わしたちが想像もつかない力を持つその機械は……

カプリコンを違う次元に飛ばした

二つの惑星は次元の壁を通じて二重惑星となったんじゃ

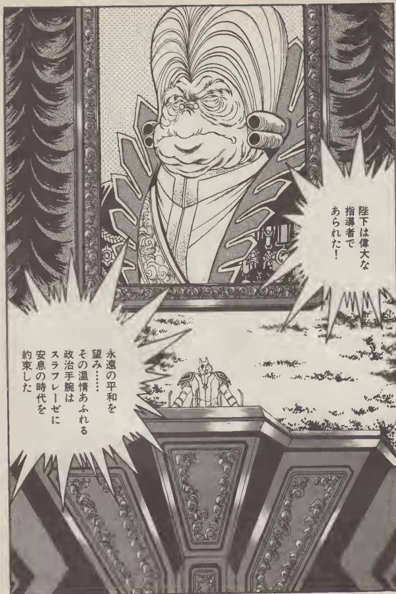
もっともこれはガレッティ博士の観測と推理からの話だそーだけど…

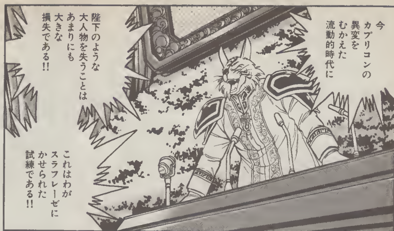
でもあたしたちの頭じゃ想像もつかないわね話が大きすぎて……

その無限アンカーを手に入れたゾルバはまたカプリコンをこの世界に引きずりこもうとしている……

でも何のためだろ……


そいつだけは阻止せねば……
軍人たちはそのリスクをあまりにも小さく考えている
ガレッティは重力バランスの狂いからくる天変地異を予測している……
何が起こるかはわからんのじゃ
そんなにしてまでカプリコンがほしいのかなぁ
外見はきれいだけど汚れきっちゃった星だよ今の地球は……
大変よみんな!!
なんやねん?ねーちゃん
国王陛下がお亡くなりになられたわ!!


陛下は偉大な指導者であられた！
永遠の平和を望み……その温情あふれる政治手腕はスラフレーゼに安息の時代を約束した


今
カプリコンの
異変を
むかえた
流動的時代に
陛下のような
大人物を失うことは
あまりにも
大きな
損失である!!
これはわが
スラフレーゼに
かせられた
試練である!!


ザーッ
今こそ
国民は
一致団結し……
なんとなく
白々しい
演説ねー
ゾルバ国防大臣が
国王代行に
なったそうよ


すべて
やつの筋書き
通りじゃろ……
……で
どーなるんだ
軍政が
ひかれ
国民は
いやおうなしに
やつの政策に
協力させられる…
奴は戦争を
始めるぞ

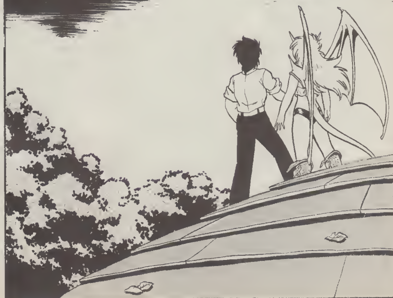
我々の悲しみの
感情を利用するが
ごとく
カプリコンの
異文明軍事力は
無法にも
わが領土内に
侵入した!!

ここにわたしは
宣言する
いかなる邪悪な
侵略者も
神聖なるわが
領土にとどまることは
許されぬ!

おろかなる
侵攻は
高い代価を
支払うことに
なるのだ!!

侵略者を
許すまじ!!

次元の壁を通して
兄弟星である
二つの惑星が
互いの人類の
命運をかけ
宿命という
歯車を
不協和音と共に
回し始めた……



◆カプリコン②おわり◆

*「カプリコン②」は月刊ウィングス'88年6月号より'88年12月号まで連載されたものです。